

2. 在宅医療・かかりつけ薬局推進分担研究班

セルフメディケーションの推進に資する薬局のあり方について

分担研究者： 長谷川 洋一 名城大学薬学部

【研究目的】

地域包括ケアシステムの構築に当たり、薬局薬剤師が、かかりつけ医を中心とする多職種と連携して地域住民の医療・保健に積極的に関与することが求められている。そのような中、薬局が、本来のかかりつけ機能を十分発揮できるようにするために、地域住民の健康保持・増進に貢献する健康情報拠点としての薬局に求められることについて、薬局の実態調査を実施し、「薬局の求められる機能とあるべき姿」の報告書に基づき、健康情報拠点として考えられる役割、機能を検討する。

【方法】

1. 薬局における健康情報提供状況等に関する実態調査

本来あるべき「かかりつけ薬局機能をもった健康情報拠点薬局」を推進するために、薬局における健康情報等の提供状況や、要指導医薬品・一般用医薬品等の

取扱状況等を把握することを目的として実施した。

1) 調査対象

公益社団法人日本薬剤師会のセルフメディケーション・サポート薬局(969件)及び保険調剤・サポート薬局(1,023件)の計1,982件を母集団として、計1,000件(セルフメディケーション500件、保険調剤500件)を無作為抽出して調査対象とした。

2) 調査方法

調査方法：対象薬局の開設者又は管理薬剤師による自記式アンケート調査

郵送発送・FAX回収(調査票については、別紙1参照)

調査基準日：平成26年7月1日(火)

実施時期：平成26年7月31日(木)

～9月3日(水)

3) 回収状況

図表 1-1 回収状況

調査票種類	発送数	回収数	回収率
セルフメディケーション・サポート薬局	500件	223件	44.6%
保険調剤・サポート薬局	500件	277件	55.4%
合計	1,000件	500件	50.0%

2. 健康情報拠点として考えられる役割の検討

分担研究班の全体会議を6回開催し、平成25年度に公表した「薬局の求められる機能とあるべき姿」を踏まえ、平成26年度の調査結果をもとに、議論した。

【結果】

1. 薬局における健康情報提供状況等に関する実態調査

調査結果の概要を別紙2に示す。

2. 健康情報拠点として考えられる薬局の役割の検討

「薬局の求められる機能とあるべき姿」における役割と地域包括ケアシステムにおいて今後担うべき薬局の役割を踏まえると、健康情報拠点としての薬局の基本的な機能は以下のことが考えられる。

・調剤による薬剤の提供はもとより、要指導医薬品・一般用医薬品等の適正な使用に関する助言や健康に関する相談、情報提供を積極的に行う。

・かかりつけ医を中心とした多職種連携の中で地域に密着した健康情報の拠点としての機能を果たす。

・国民の病気の予防や健康づくりに貢献している。

また、上記の機能を果たすために具体的に求められることとしては、調査結果等を踏まえ、以下の事項が考えられる。

構造・設備等

○ 地域住民が要指導医薬品・一般用医薬品等の適正な使用に関する助言や健康に関する相談をしやすい環境を作るためには、相談窓口が求

められるのではないかと。さらには、健康に関する相談、情報提供等における患者・薬局利用者とのやりとりが他の薬局利用者に聞こえないように、パーティション等で区切るなど、プライバシーに配慮した相談窓口の設置が求められるのではないかと。

○ 地域住民に薬局で健康情報を相談していることを認識してもらうためには、要指導医薬品・一般用医薬品等の適正な使用に関する助言や健康に関する相談を積極的に行っている旨の掲示が求められるのではないかと。

○ 近隣の医療機関にあわせた開局時間では、地域における健康情報拠点としての機能を果たすことが困難であるため、薬局は、一定時間以上の開局が求められるのではないかと。

さらに、平日仕事をしている者等の相談に応じるためには、土日も含めて一定時間以上の開局が求められるのではないかと。

○ 患者・薬局利用者にとって顔が見える薬剤師になるためには、患者・薬局利用者には、薬剤師の氏名、開局時間以外も含めた直接連絡がとれる連絡先を知らせること（例えば、名刺の交付）が求められるのではないかと。

医薬品、衛生材料の供給体制

○ 地域住民が要指導医薬品等について相談しやすい環境をつくるためには、薬局における相談や受診勧奨の実績と要指導医薬品の取扱い数との相関関係を踏まえて、要指導

医薬品等については、一定数以上の品目数¹の取扱いが求められるのではないかな。

- 衛生材料、介護用品等の提供の拠点としての役割を果たすために、薬局における相談の実績と衛生材料、介護用品の取扱い数との相関関係や現状の薬局における取扱い数を踏まえて、衛生材料等についても、一定数以上の品目数¹の取扱いが求められるのではないかな。

薬剤師の資質

- 要指導医薬品・一般用医薬品等の適正な使用に関する助言や健康に関する相談、情報提供を行うために、一定の基準を満たす研修を修了した薬剤師が常駐し健康相談等に応じることが求められるのではないかな。
- 薬局の管理者（管理薬剤師）は、その薬局に勤務する薬剤師等を監督しその薬局の構造設備及び医薬品等の管理等を行う立場であることから、一定以上の実務経験等が求められるのではないかな。

健康相談・健康づくり支援

- 薬局利用者・患者の健康相談に対して継続的に相談に乗るためには、薬局は過去の要指導医薬品等の販売内容や相談内容の記録や保存が

求められるのではないかな。

- 地域住民は日頃からテレビや新聞で「健康」に関する様々な情報にさらされている。健康相談に適切に対応するためには、薬局は日頃からこれらの情報を収集して評価することが求められるのではないかな。
- 国、地方自治体、関連学会等は、ポスター掲示、パンフレット配布などにより健康への啓発活動を行っており、薬局はこの啓発活動に協力することが求められるのではないかな。
- 地域住民に対して、薬局が健康に関する取組の情報発信をすることが求められるのではないかな。
- 要指導医薬品等の服用についてもお薬手帳の活用が求められるのではないかな。

かかりつけ薬局としての機能

- 薬局は、かかりつけ医を中心とした地域包括ケアシステムを構築していく中で、在宅医療への積極的な参画、面分業による処方箋応需体制の整備など、例えば、調剤報酬上における基準調剤加算の要件のような、いわゆるかかりつけ薬局の機能を備えていることが求められるのではないかな。

地域における連携体制の構築

- 地域において、かかりつけ医を中心に多職種と連携するためには、医療、介護、行政等と円滑な連携ができるような受診勧奨や紹介等を適切に行うことが求められるのではないかな。

¹ 例えば、受診勧奨を含めた薬の選択や健康に関する相談対応の実績と薬局における取扱い品目数の相関関係を考慮し、要指導医薬品等については600品目、衛生材料等については100品目が考えられるのではないかな。

- 地域住民に対し、医療、介護、行政の適切な相談窓口を案内するために、連携先リスト及びマップの作成、共有が求められるのではないか。
- 地域において、関連団体と連携するためには、地域の医師会、歯科医師会、薬剤師会等との活動又は事業に参加し、地域保健医療に貢献していることが求められるのではないか。

その他

- 無薬局町村にて出張健康相談や在宅薬剤管理指導を行っている場合には役割や機能において一定の配慮が求められるのではないか。

薬局における健康情報提供状況等に関する実態調査

【返送先FAX番号：03-5281-5443】 返送期限 8月15日（金）（みずほ情報総研株式会社）

都道府県名

薬局名

★調査時期について特に断りの無い場合は、平成26年7月1日の状況を記入してください。

1 従事者数（常勤換算数をご記入ください）

① 薬剤師（管理薬剤師含む）	人
② 登録販売者	人
③ その他の職員	人
④ ①～③のうち、介護支援専門員	いる・いない

2 処方箋受付回数・集中度（平成26年6月1カ月間）

① 処方箋受付回数	回
② 処方箋の集中度 ^{※1}	%

※1 ②の集中度は、平成26年6月1カ月間に最も多く処方箋を受け付けた医療機関からの受付回数を、全医療機関からの受付回数で除した割合（小数点第二位を四捨五入して小数点第一位まで）をご記入ください。

3 貴局利用者の生活習慣全般に係る相談対応^{※2}

※2 地域の行政や薬剤師会の事業の一環として、貴局利用者の栄養・食生活、身体活動・運動、休養、こころの健康づくり、飲酒、喫煙など生活習慣全般に係る相談について応需・対応し、地域住民の生活習慣の改善、疾病の予防に資する取組みを行っていることを指します。

① 相談体制の標榜の有無

01 標榜している 02 標榜していない

② 過去半年間の相談対応の実績の有無

01 ある ⇒ 相談対応実績 延べ 人
02 ない

4 要指導医薬品・一般用医薬品の取扱い品目数^{※3}

要指導医薬品	品目	
一般用医薬品	① 総合感冒薬・解熱鎮痛薬	品目
	② 精神神経用薬	品目
	③ 消化器官用薬	品目
	④ 循環器・血液用薬	品目
	⑤ 呼吸器官用薬	品目
	⑥ 泌尿生殖器官及び肛門用薬	品目
	⑦ 滋養強壮保健薬	品目
	⑧ 女性用薬	品目
	⑨ アレルギー用薬	品目
	⑩ 外皮用薬	品目
	⑪ 眼科用薬	品目
	⑫ 耳鼻科用薬	品目
	⑬ 歯科口腔用薬	品目
	⑭ 禁煙補助剤	品目
	⑮ 漢方製剤	品目
	⑯ 公衆衛生用薬	品目
	⑰ 一般用検査薬	品目
合計	品目	

※3 販売実績に関わらず、店内で陳列している品目数（アイテム数）をご記入ください。また、各カテゴリの詳細については別紙をご参照ください（次問5も同様です）。

5 介護用品・衛生材料・医療機器等の取扱い品目数

① 介護用品	品目
② 衛生材料	品目
③ 医療機器・その他家庭用計量計測機器	品目
④ 医薬部外品	品目
⑤ 乳幼児用品	品目

6 貴局利用者に対する医療機関への受診勧奨・情報提供

① 過去半年間の医療機関への受診勧奨の実績の有無

01 ある
02 ない（次問7へお進みください）

② 過去半年間の医療機関への受診勧奨の実績

要指導医薬品・一般用医薬品の購入希望者に対する受診勧奨	延べ	人
上記以外の貴局利用者に対する受診勧奨	延べ	人

③ 過去半年間の文書による情報提供^{※4}の実績の有無

※4 上記の受診勧奨をした貴局利用者が医療機関を受診する際に、紹介状等文書により情報提供することを指します。

01 ある ⇒ 情報提供実績 延べ 人
02 ない

7 他機関との連携^{※5}

※5 貴局利用者本人又はその家族等からの健康や介護等に関する相談を受け、適当な行政・関係機関（役所等の相談窓口、保健所、福祉事務所、地域包括支援センター等）への連絡・紹介を行っていることを指します。

◎ 過去半年間の連携の実績の有無

01 ある ⇒ 連携実績 延べ 人
02 ない

8 健康食品等に関する情報提供^{※6}

※6 特定保健用食品、特別用途食品、サプリメント等のいわゆる健康食品等を購入される方について適切な情報の把握に努め、服用薬との相互作用等の健康食品に係る相談について応需・対応していることを指します。

① 過去半年間の健康食品等に関する相談対応の状況

01 ある ⇒ 相談対応実績 延べ 人
02 ない（次問9へお進みください）

② 過去半年間の健康食品等と服用薬との相互作用に関する情報提供の実績の有無

01 ある ⇒ 情報提供実績 延べ 人
02 ない

9 要指導医薬品・一般用医薬品等の売上の割合^{※7}

※7 平成26年6月の貴局の総売上に占める要指導医薬品や一般用医薬品等の売上の割合をご記入ください。なお、割合は小数点第一位を四捨五入してご記入ください。

◎ 平成26年6月の状況

① 要指導医薬品・一般用医薬品	%
② 介護用品・衛生材料・医療機器等 ^{※8}	%

※8 介護用品、衛生材料、医療機器・その他家庭用計量計測機器、医薬部外品、乳幼児用品を指します。

調査結果の概要

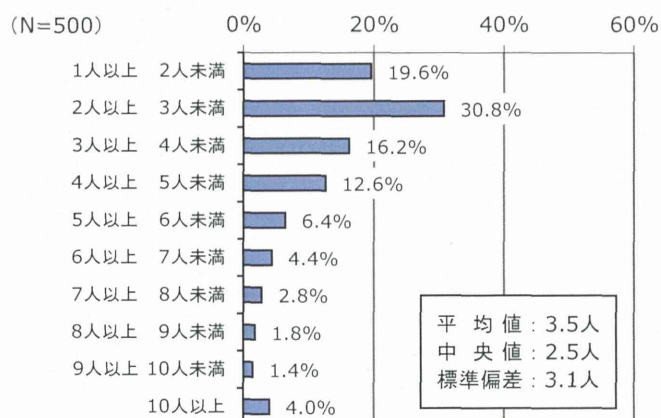
1. 回答薬局全体の状況

1) 従事者数（常勤換算）

① 薬剤師

平成 26 年 7 月 1 日現在の 1 施設当たり薬剤師数（常勤換算）は「2 人以上 3 人未満」30.8%が最も多く、次いで「1 人以上 2 人未満」19.6%であった（平均値 3.5 人、中央値 2.5 人）。

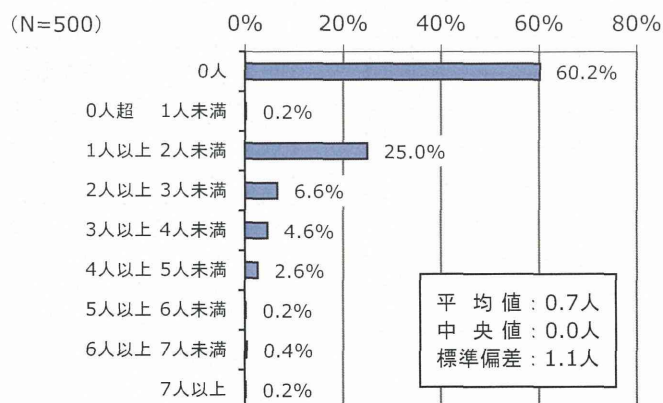
図表 2-1 1 施設当たり薬剤師数（常勤換算）



② 登録販売者

1 施設当たり登録販売者数（常勤換算）は「0 人」60.2%が最も多く、次いで「1 人以上 2 人未満」25.0%であった（平均値 0.7 人、中央値 0.0 人）。

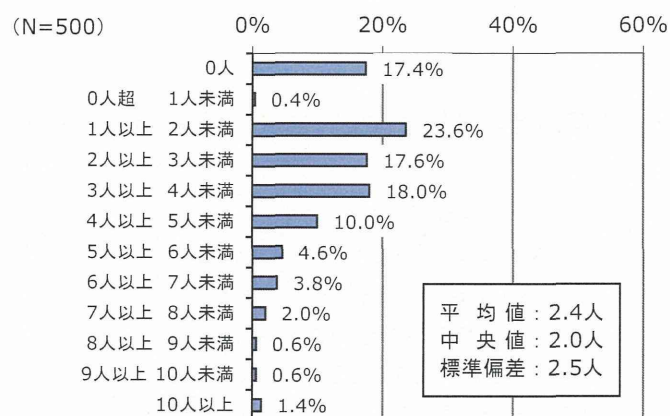
図表 2-2 1 施設当たり登録販売者数（常勤換算）



③ その他の職員

1施設当たりその他の職員数（常勤換算）は「1人以上2人未満」23.6%が最も多く、次いで「3人以上4人未満」18.0%であった（平均値2.4人、中央値2.0人）。

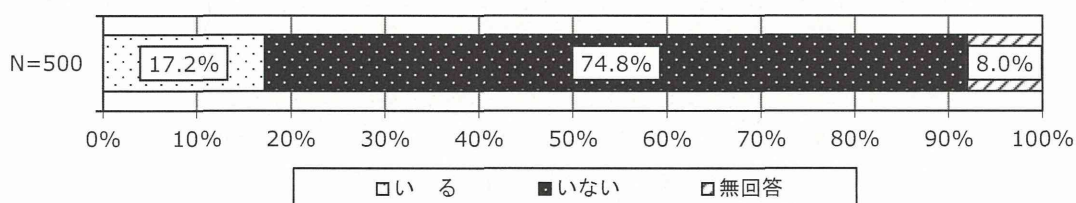
図表 2-3 1施設当たりその他の職員数（常勤換算）



④ 介護支援専門員の有無

従事者のうち介護支援専門員の資格保有者の有無についてみると、「いない」74.8%、「いる」17.2%であった。

図表 2-4 介護支援専門員の有無

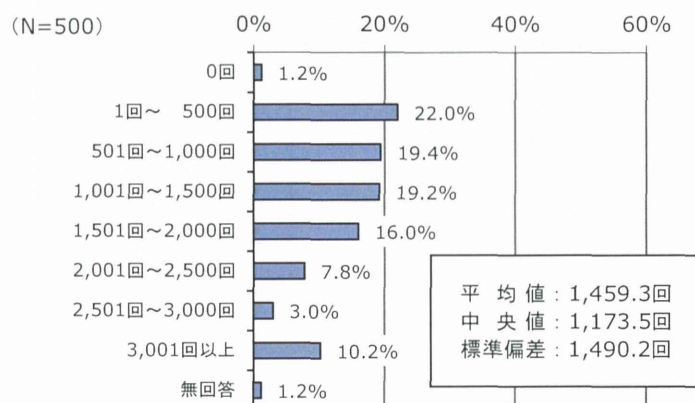


2) 処方箋の受付回数・集中度

① 処方箋受付回数【平成26年6月1カ月間】

平成 26 年 6 月 1 カ月間における 1 施設当たり処方箋受付回数は「1 回～500 回」22.0%が最も多く、次いで「501 回～1,000 回」19.4%であった（平均値 1,459.3 回、中央値 1,173.5 回）。

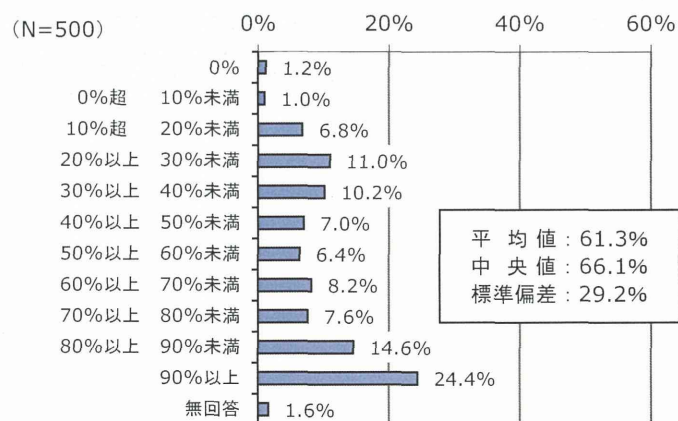
図表 2-5 1 薬局当たり処方箋受付回数【平成 26 年 6 月 1 カ月間】



② 処方箋の集中度【平成26年6月1カ月間】

平成 26 年 6 月 1 カ月間における処方箋の集中度^{注1}は「90%以上」24.4%が最も多く、次いで「80%以上 90%未満」14.6%であった（平均値 61.3%、中央値 66.1%）。

図表 2-6 処方箋の集中度【平成 26 年 6 月 1 カ月間】



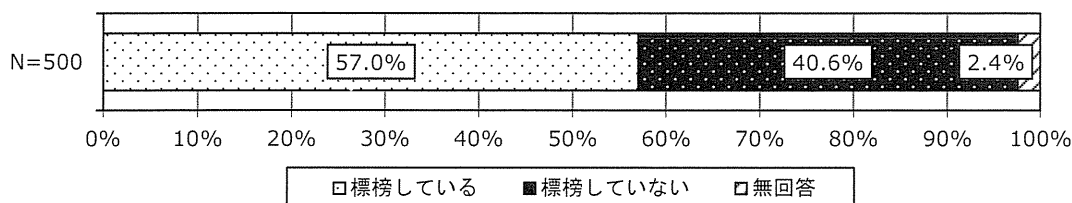
^{注1} 平成 26 年 6 月 1 カ月間に最も多く処方箋を受け付けた医療機関からの受付回数を、全医療機関からの受付回数で除した割合。

3) 薬局利用者の生活習慣全般に係る相談対応の状況

① 相談対応に係る体制の標榜の有無

薬局利用者の生活習慣全般に係る相談対応^{注2}に係る体制の標榜の有無についてみると、「標榜している」57.0%、「標榜していない」40.6%であった。

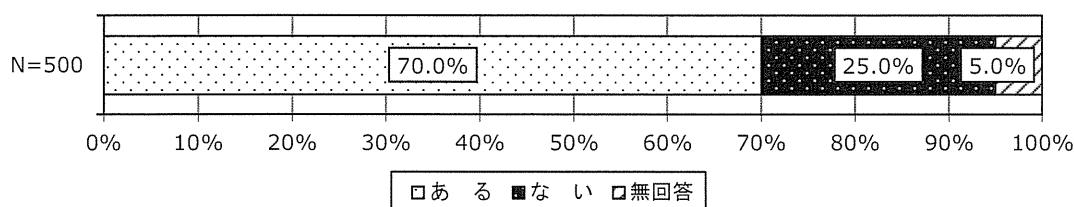
図表 2-7 相談対応に係る体制の標榜の有無



② 相談対応の実績【過去半年間】

過去半年間の相談対応の実績の有無についてみると、「ある」70.0%、「ない」25.0%であった。

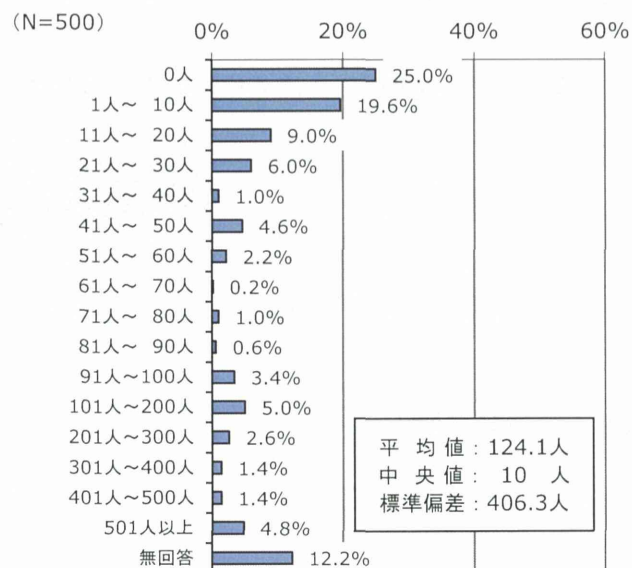
図表 2-8 相談対応の実績の有無【過去半年間】



^{注2} 地域の行政や薬剤師会の事業の一環として、薬局利用者の栄養・食生活、身体活動・運動、休養、こころの健康づくり、飲酒、喫煙など生活習慣全般に係る相談について応需・対応し、地域住民の生活習慣の改善、疾病の予防に資する取組みを行っていることを指す。

また、過去半年間に相談対応を行った薬局利用者の1施設当たり延べ人数は「0人」25.0%が最も多く、次いで「1人～10人」19.6%であった（平均値124.1人、中央値10人）。

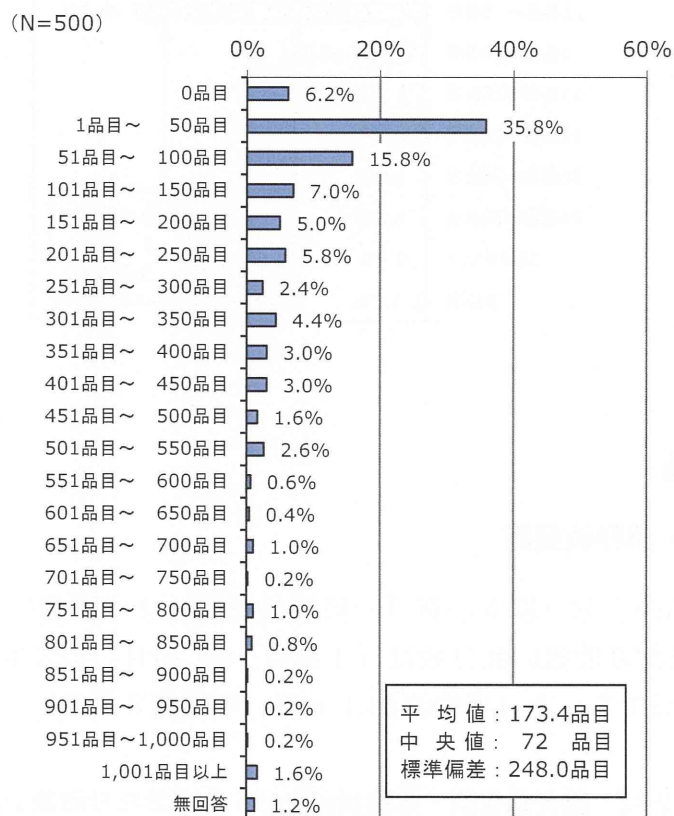
図表 2-9 相談対応した利用者の延べ人数【過去半年間】



4) 要指導医薬品及び一般用医薬品の取扱い品目数

要指導医薬品及び一般用医薬品の1施設当たり取扱い品目数^{注3}は「1品目～50品目」35.8%が最も多く、次いで「51品目～100品目」15.8%であった（平均値173.4品目、中央値72品目）。

図表 2-10 要指導医薬品及び一般用医薬品の1施設当たり取扱い品目数

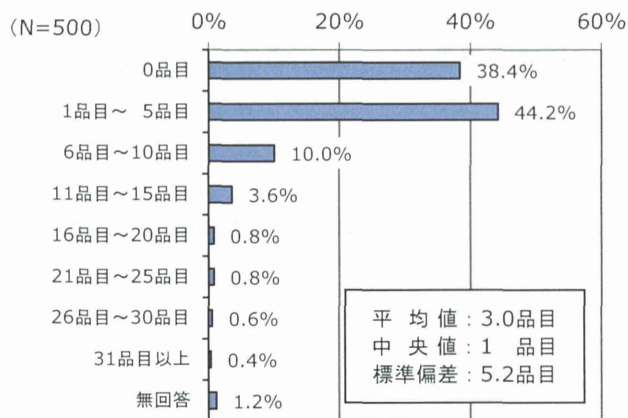


^{注3} 販売実績に関わらず、店内で陳列している品目数（アイテム数）。

① 要指導医薬品

要指導医薬品の1施設当たり取扱い品目数は「1品目～5品目」44.2%が最も多く、次いで「0品目」38.4%であった（平均値3.0品目、中央値1品目）。

図表 2-11 要指導医薬品の1施設当たり取扱い品目数

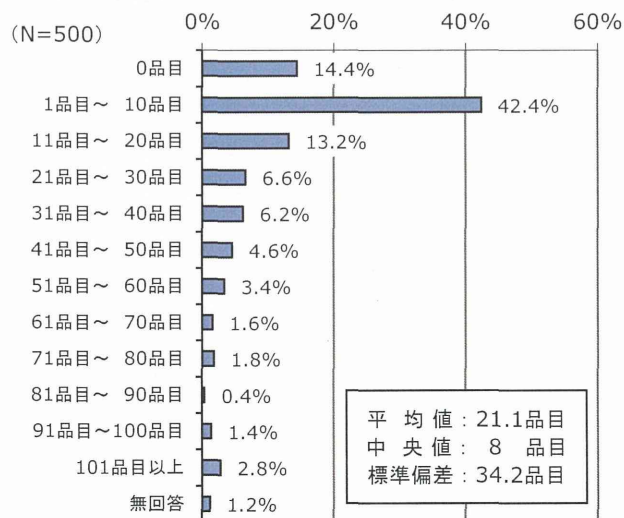


② 一般用医薬品

■ 総合感冒薬・解熱鎮痛薬

一般用医薬品のうち（以下○頁「一般用検査薬」まで同様）総合感冒薬・解熱鎮痛薬の1施設当たり取扱い品目数は「1品目～10品目」42.4%が最も多く、次いで「0品目」14.4%であった（平均値21.1品目、中央値8品目）。

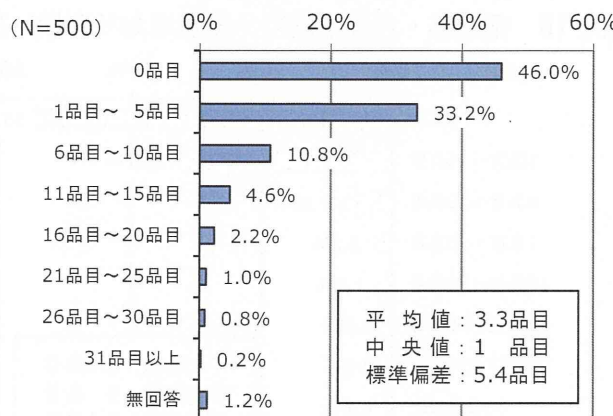
図表 2-12 総合感冒薬・解熱鎮痛薬の1施設当たり取扱い品目数



■ 精神神経用薬

精神神経用薬の1施設当たり取扱い品目数は「0品目」46.0%が最も多く、次いで「1品目～5品目」33.2%であった（平均値3.3品目、中央値1品目）。

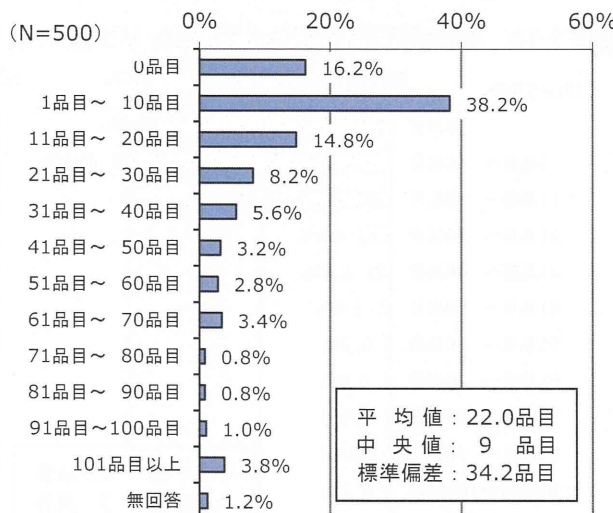
図表 2-13 精神神経用薬の1施設当たり取扱い品目数



■ 消化器官用薬

消化器官用薬の1施設当たり取扱い品目数は「1品目～10品目」38.2%が最も多く、次いで「0品目」16.2%であった（平均値22.0品目、中央値9品目）。

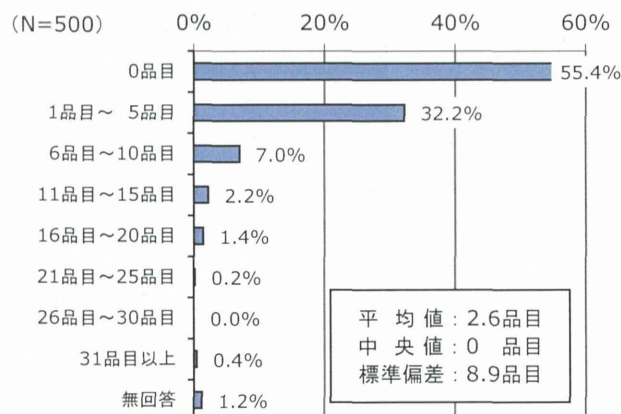
図表 2-14 消化器官用薬の1施設当たり取扱い品目数



■ 循環器・血液用薬

循環器・血液用薬の1施設当たり取扱い品目数は「0品目」55.4%が最も多く、次いで「1品目～5品目」32.2%であった（平均値2.6品目、中央値0品目）。

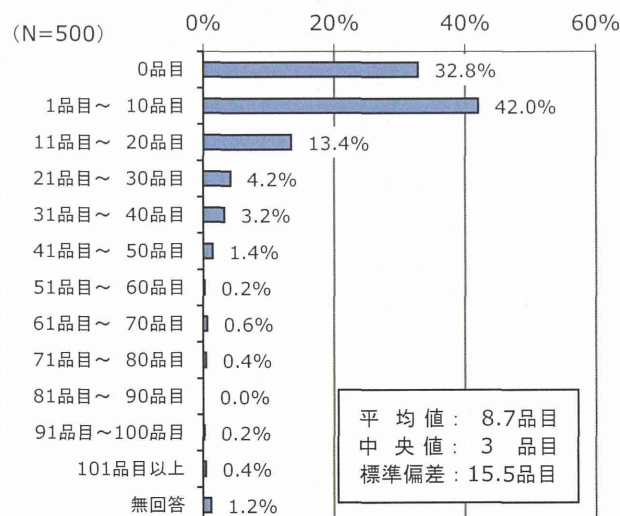
図表 2-15 循環器・血液用薬の1施設当たり取扱い品目数



■ 呼吸器官用薬

呼吸器官用薬の1施設当たり取扱い品目数は「1品目～10品目」42.0%が最も多く、次いで「0品目」32.8%であった（平均値8.7品目、中央値3品目）。

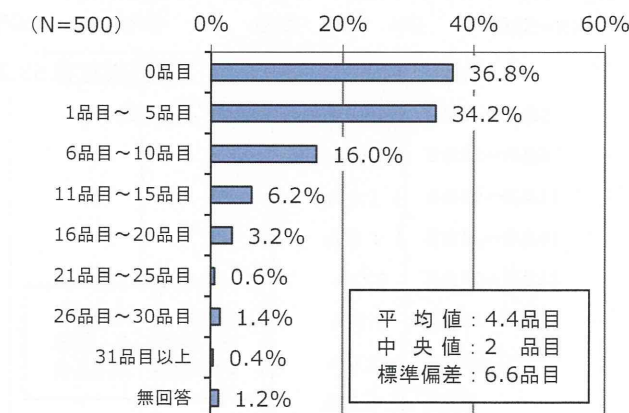
図表 2-16 呼吸器官用薬の1施設当たり取扱い品目数



■ 泌尿生殖器官及び肛門用薬

泌尿生殖器官及び肛門用薬の1施設当たり取扱い品目数は「0品目」36.8%が最も多く、次いで「1品目～5品目」34.2%であった（平均値 4.4 品目、中央値 2 品目）。

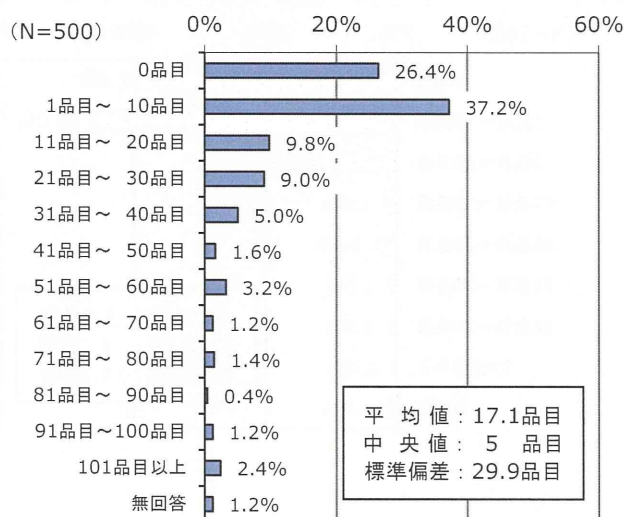
図表 2-17 泌尿生殖器官及び肛門用薬の1施設当たり取扱い品目数



■ 滋養強壮保健薬

滋養強壮保健薬の1施設当たり取扱い品目数は「1品目～10品目」37.2%が最も多く、次いで「0品目」26.4%であった（平均値 17.1 品目、中央値 5 品目）。

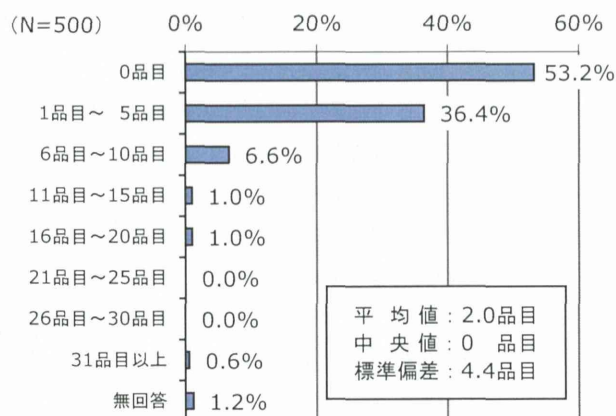
図表 2-18 滋養強壮保健薬の1施設当たり取扱い品目数



■ 女性用薬

女性用薬の1施設当たり取扱い品目数は「0品目」53.2%が最も多く、次いで「1品目～5品目」36.4%であった（平均値2.0品目、中央値0品目）。

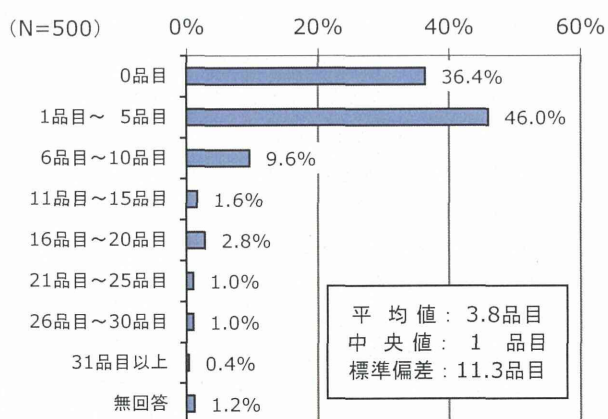
図表 2-19 女性用薬の1施設当たり取扱い品目数



■ アレルギー用薬

アレルギー用薬の1施設当たり取扱い品目数は「1品目～5品目」46.0%が最も多く、次いで「0品目」36.4%であった（平均値3.8品目、中央値1品目）。

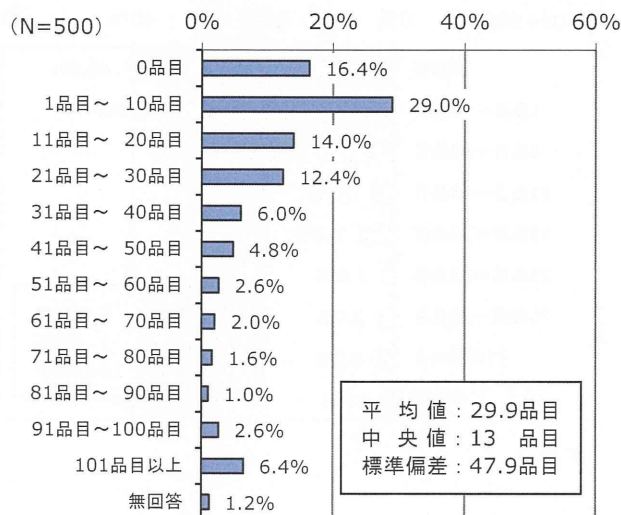
図表 2-20 アレルギー用薬の1施設当たり取扱い品目数



■ 外皮用薬

外皮用薬の1施設当たり取扱い品目数は「1品目～10品目」29.0%が最も多く、次いで「0品目」16.4%であった（平均値29.9品目、中央値13品目）。

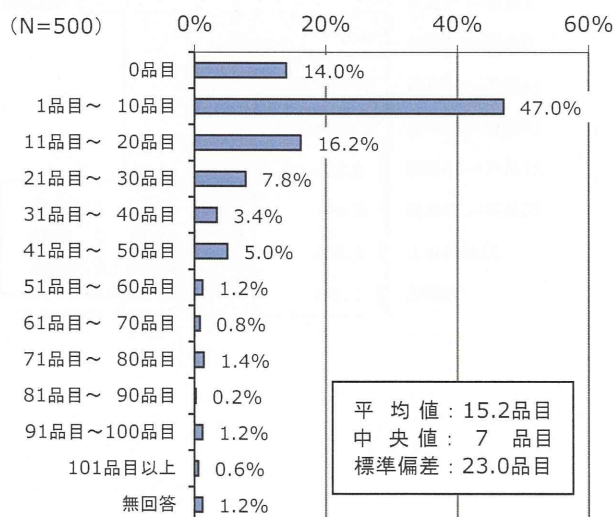
図表 2-21 外皮用薬の1施設当たり取扱い品目数



■ 眼科用薬

眼科用薬の1施設当たり取扱い品目数は「1品目～10品目」47.0%が最も多く、次いで「11品目～20品目」16.2%であった（平均値15.2品目、中央値7品目）。

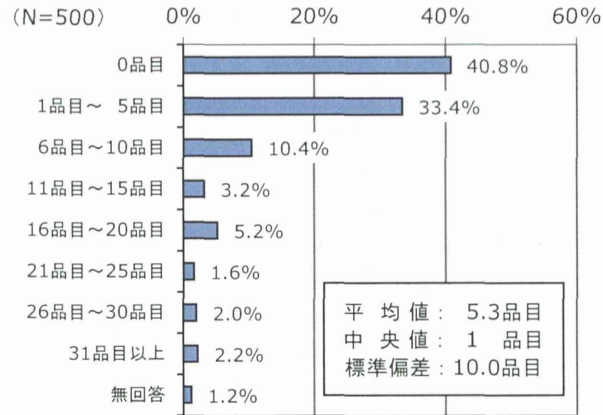
図表 2-22 眼科用薬の1施設当たり取扱い品目数



■ 耳鼻科用薬

耳鼻科用薬の1施設当たり取扱い品目数は「0品目」40.8%が最も多く、次いで「1品目～5品目」33.4%であった（平均値5.3品目、中央値1品目）。

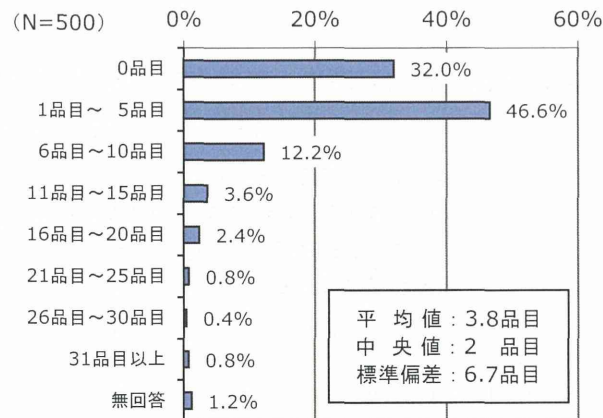
図表 2-23 耳鼻科用薬の1施設当たり取扱い品目数



■ 歯科口腔用薬

歯科口腔用薬の1施設当たり取扱い品目数は「1品目～5品目」46.6%が最も多く、次いで「0品目」32.0%であった（平均値3.8品目、中央値2品目）。

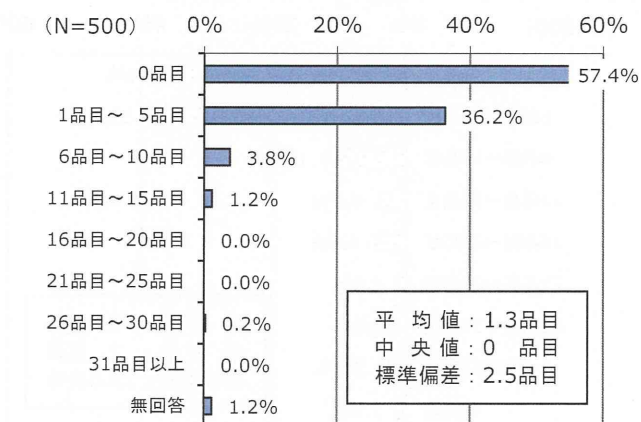
図表 2-24 歯科口腔用薬の1施設当たり取扱い品目数



■ 禁煙補助剤

禁煙補助剤の1施設当たり取扱い品目数は「0品目」57.4%が最も多く、次いで「1品目～5品目」36.2%であった（平均値1.3品目、中央値0品目）。

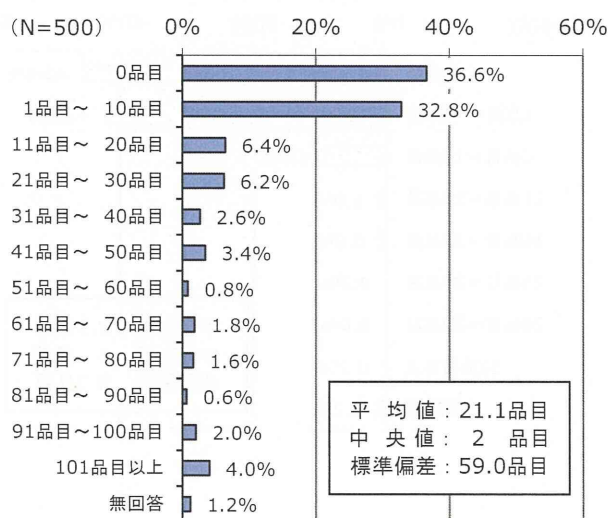
図表 2-25 禁煙補助剤の1施設当たり取扱い品目数



■ 漢方製剤

漢方製剤の1施設当たり取扱い品目数は「0品目」36.6%が最も多く、次いで「1品目～10品目」32.8%であった（平均値21.1品目、中央値2品目）。

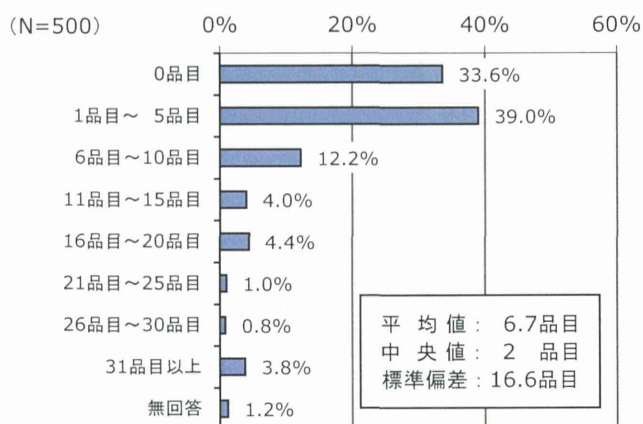
図表 2-26 漢方製剤の1施設当たり取扱い品目数



■ 公衆衛生用薬

公衆衛生用薬の1施設当たり取扱い品目数は「1品目～5品目」39.0%が最も多く、次いで「0品目」33.6%であった（平均値6.7品目、中央値2品目）。

図表 2-27 公衆衛生用薬の1施設当たり取扱い品目数



■ 一般用検査薬

一般用検査薬の1施設当たり取扱い品目数は「0品目」45.6%が最も多く、次いで「1品目～5品目」42.2%であった（平均値2.1品目、中央値1品目）。

図表 2-28 一般用検査薬の1施設当たり取扱い品目数

